

議 長  
確認印

経済厚生常任委員会会議録

1 日 時	開会 平成 27 年 2 月 17 日 13 : 30 閉会 平成 27 年 2 月 17 日 16 : 40
2 場 所	委員会室
3 出席委員	吉田克則、鈴木安次、小峰由久、小貫初枝、割貝寿一、藤田一男、藤田恵二
4 欠席委員	なし
5 出席要求者	まち整備課長 まち管理係長
6 職務出席者	議会事務局長、書記
7 傍聴	
8 付議事件	第 1 定住促進住宅建設事業
9 議事の経過	<p>13 : 30 役場集合 台宿字北原地内 事業予定地 現地調査 説明員 まち整備課長及びまち管理係長 事業概要説明の要旨 平成 27 年度から 2 か年計画で定住促進住宅(木造 2 階建て 2 戸 (22.7 坪/戸))を建設する。 27 年度は設計業務委託、28 年度建設工事を行う。事業費は 59,500 千円、社会資本整備総合交付金事業(国庫補助事業 補助率 50%)で実施予定。</p> <p>主な質疑 Q : 坪単価が百万にもなる。高すぎないか。 A : 鮫川村、三島町の事例を参考に人件費、資材費の高騰を考慮したもの。精査はしていない。 Q : 子供の人数により家賃を割り引くことはできるのか。 A : 補助事業の規定による。割引は困難であろう。まだ、どの補助事業で整備するか確定していない。 Q : 大子町などでは、各戸別々の設計となっていた。 A : 1 棟 1 戸では補助事業の該当外。1 棟 2 戸とする。 Q : 単独事業で整備できないのか。 A : 現在のところ国庫補助事業で計画している。 Q : 現在ここは駐車場として利用しているようだが。 A : 公営住宅の正式な駐車場ではない。 (説明員退場)</p> <p>14 : 05 委員会室集合 副委員長 : 開会</p>

委員長：あいさつ

## 第1 定住促進住宅建設事業

委員長：討議を行う。

藤田(一)委員：建設単価があまりにも高すぎる。大子町では50万円を切っていた。

委員長：単価については、決まった積算方法があるのだろう。

小峰委員：補助事業でやることにこだわらなければいいのではないか。町の建築業者に見積もりを取ってやるとか検討すべきではないか。補助金をもらってはヒモ付きで自由がきかない。検討する余地はあるのではないか。公共単価は理解するが。

委員長：町単独事業でやれば大子町のように20年30年後には譲渡することも可能である。しかし、それができるのか検討してもらう必要はある。

委員長：あの土地では周りに古い住宅があり環境は良くない。若い人は環境も重視すると思う。適地とは言えない。

藤田(一)委員：買い物にも不便か。

鈴木(安)委員：視察してきたのでそれらを勘案して意見を出すべきでは。

藤田(一)委員：社会資本交付金を使わない手はあると思う。そのように提言してはどうか。あの敷地であれば、4戸は作れるのではないか。ある程度たてば譲渡してもいいのでは。また、子どもの人数によって割引など町の考えで自由にできる。若い人は1戸建てに住みたいという希望もあるようだ。

鈴木(安)委員：浪江からの避難者が家を建てたいという話を聞いた。住みたいという人はいる。

藤田(一)委員：SMCのこともあるが、矢祭では制度を充実しているので家を建てる人が増えてきたという話もある。

委員長：我々の考えを町に出したいと思う。

小峰委員：住宅関係者から聞いた話であるが、塙の住宅を勧めなくなったという。なぜなら、役員などを強要されるという。このため、棚倉などを紹介しているという。北原住宅にも長く住んでいる方がいると思うがそのような心配もあるかもしれない。

委員長：大子町でも地元になじんでもらうのが重要と言っていた。

委員長：ほかになければ、委員会の意見として補助事業に固執しないで幅広く検討してほしいという結論にしたい。

(異議なし)

委員長：その他あるか。

鈴木(安)委員：塙町の保健推進員の活動について調査したいと思う。また、工業団地内の町道の路面がひどい。計画があるかどうかわからないが、調査したほうがよいと思う。

委員長：調査を進めたい。なお、水道事業についての調査であるが前回再調査が必要との意見もあったがどうするか。

委員長：保健推進員と町道を先にやって、水道については見送ることでよいか。町道については現地を見てから説明を受けることにしたい。時期は定例会後でよいか。

(異議なし)

委員長：以上で議事を終わる

副委員長：閉会

埴町議会委員会条例の第 27 条の規定により署名する。

平成 年 月 日

経済厚生常任委員長